

もうかい き かん
18世紀中葉の毛介綺煥に描かれたヤマネ
Glirulus japonicus の産地の特定

長峰 智^{1, 4)}, 安田 雅俊^{2, 4)}, 坂田 拓司^{3, 4)}

¹⁾熊本県立水俣高等学校, ²⁾森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ

³⁾熊本市立千原台高等学校, ⁴⁾熊本野生生物研究会

Locality of the Japanese dormouse *Glirulus japonicus*
illustrated in Moukaikikan in the mid 18th Century

Satoru Nagamine¹⁾, Masatoshi Yasuda²⁾ and Takuji Sakata³⁾

¹⁾Prefectural Minamata High School

²⁾Forest Zoology Laboratory, Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

³⁾Kumamoto Municipal Chiharadai High School ⁴⁾Kumamoto Wildlife Society

はじめに

ヤマネ *Glirulus japonicus* (齧歯目ヤマネ科) は本州、四国、九州、隠岐島後に分布する1属1種の日本固有種であり、1975年に国の天然記念物に指定されている(阿部ほか 2008)。

熊本藩主細川重賢(1721~1785)が18世紀半ばに描いた動物図譜『毛介綺煥』には、熊本藩内に当時生息したオオカミ *Canis lupus* などとともに、宝暦6年12月(1757年1月)に捕らえたヤマネの写生図と解説文がある(図1)。本稿では、このヤマネの産地について最近の調査で得られた知見を報告する。

『毛介綺煥』は宝暦6年(1756年)から天明4年(1784年)までの魚貝類と哺乳類の写生画と、1枚のみであるが、寛政6年(1794年)のものが貼合わされた約50ページの画帖である(西山 1988)。解説文から熊本県産と考えられる野生の陸生哺乳類は、描かれている順に、カワネズミ *Chimarrogale platycephala*, ヤマネ, アナグマ *Meles meles*, ネズミ類(白鼠), テン *Martes melampus*, ヒミズ *Urotrichus talpoides*, オオカミの計7種である。

ヤマネの写生図(Fig. 1)は『毛介綺煥』に描かれた多くの動物種のなかでも有名なもののひとつである。このヤマネは成獣とみられ、ほぼ原寸大に体の左側面を真横から、細い毛先にいたるまで精密に描かれている。また、図からは目の周りの黒い縁取りの部分が太く鮮明であるという西日本産ヤマネの特徴(中島 2006)を読み取ることができる。図の解説文には「宝暦六年丙子十

二月七日芦北郡久木野村井手ノ谷ノ山中樫ノ朽木ノ内ヨリ捕指出候。鼠類ノ子何とも分り兼候付、久木野吉次兵衛ヲ以庄屋文七ニ相尋候得ハ、在中ニテハ木鼠又は栗鼠トモ申候。朽木ノ内ニ居申候虫ヲ食シ申候由申候事。」

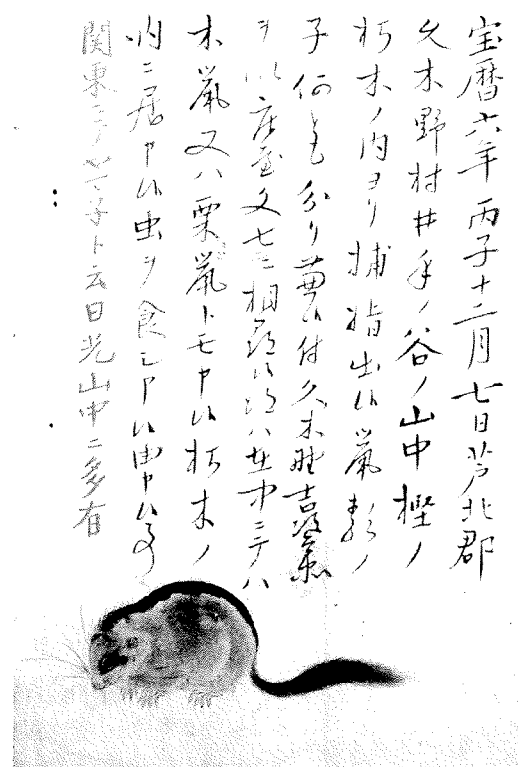


Fig. 1. *Glirulus japonicus* in Moukaikikan, a Japanese natural historical material drawn and compiled by Lord Shigekata Hosokawa in the mid 18th century. Collection date of the individual was on 26 January 1757. (財団法人永青文庫蔵, Courtesy Eisei-Bunko Museum)

とあり、その左に朱書にて「関東ニテヤマ子ト云日光山中ニ多有」と記されている。すなわち捕獲日は西暦1757年1月26日である。この図は西岡（1974）、吉倉（1988）、中島（2006）等に紹介されているが、これまで正しい産地は特定されていない。

過去のヤマネの分布や生息地を特定することは、生息環境の変化がヤマネに及ぼす影響を解明することにつながるかと期待される。そこで本研究は、『毛介綺煥』に描かれたヤマネ個体の捕獲場所である「芦北郡久木野村井手ノ谷」の所在を明らかにすることを目的として行った。

本研究にあたり水俣市久木野在住の方々には、久木野の谷の名称を教えていただいた。なかでも古里勝美氏には「井出ノ谷」に関する重要な文献をご教示いただいた。さらに水俣市大川在住の中村秀芳氏には、古里勝美氏と共に「井出ノ谷」の現地を案内していただいた。永青文庫所蔵『毛介綺煥』ヤマネ図（Fig. 1）については、永青文庫より許可（永青掲第196号）を得て本論文に掲載した。また、その解説文の読解については熊本市歴史文書資料室歴史談話室の猪飼隆明氏にご協力いただいた。記して感謝する次第である。

調査地と方法

上記解説文の「芦北郡久木野村」は現在の水俣市久木野一帯にあたることを考え、この一帯の古老を対象として「井手ノ谷」という地名の所在を聞き取り調査した。あ

わせて文献調査を行った。調査は2009年11月から2010年1月にかけて行った。

結果と考察

まず、『毛介綺煥』のヤマネは熊本藩藩主に献上された珍しい動物の博物学的記録であることから、その解説文の記述は十分信頼できると考えた。江戸時代の久木野村は近隣の寒川村、古里村、中小場村、寺床村、大川内村、越小場村とともに久木野手永（手永とは村と郡の間に位置する熊本藩の行政単位）を構成し、宝暦6年当時の同手永の惣庄屋は伊藤吉次兵衛であった（水俣市史編さん委員会 1991）。久木野手永の地理的な広がりには1956年水俣市編入以前の久木野村のそれに相当する（熊本県総務部地方課 1995）。それゆえ、解説文にある「久木野村」は久木野手永久木野村、すなわち現在の水俣市久木野にあたることを考えられた。しかしながら、聞き取り調査の対象とした久木野の古老に「井手ノ谷」の所在を知る者はいなかった。

次に、かつての久木野手永であった近隣の地区でも同様の調査を行ったところ、水俣市古里の古里勝美氏より、『新水俣市史 民俗・人物編（水俣市史編さん委員会 1997）』の695-697頁に「イデン谷」にまつわる伝説の記述があることの御教示を賜った。地元の発音でイデン谷は「井手ノ谷」を指す。すなわち、「井手ノ谷」とは現在の水俣市大川を流れる久木野川の支流のひとつ柳平川

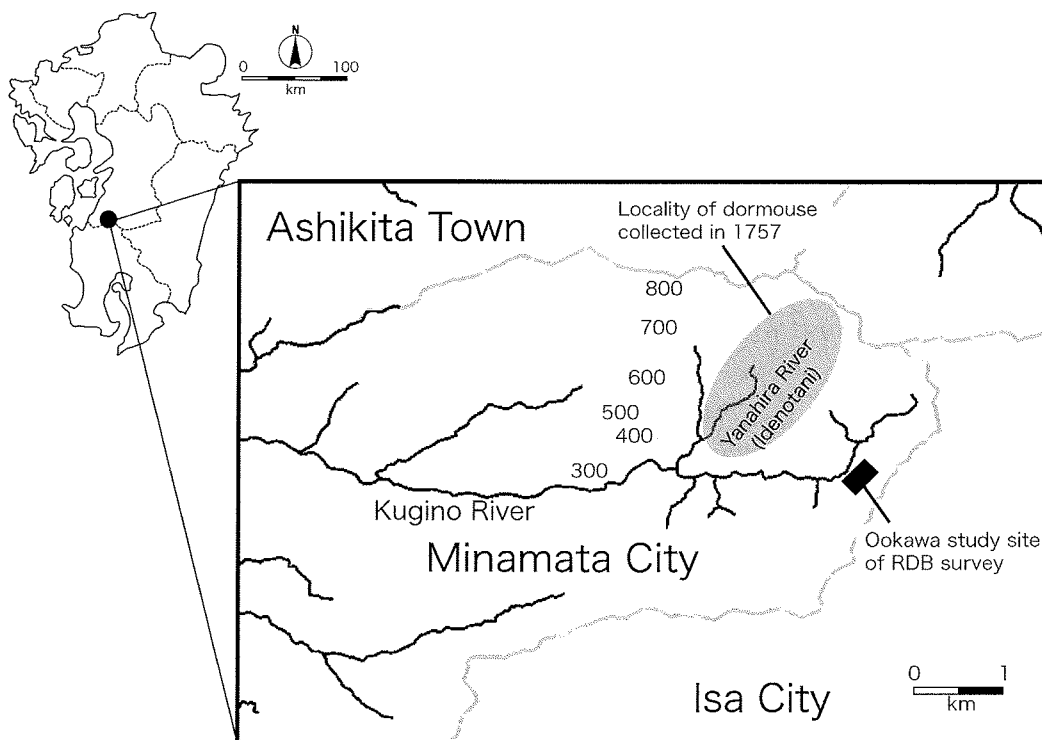


Fig. 2. Locality of the illustrated individual of *Glirulus japonicus* in Moukaikikan specified in this study.

であった (Fig. 2). 中島 (2006) は水俣市寒川にある「井出ノ元」という地名を「井手ノ谷」と解釈しているが、本調査では「井手ノ谷」と同一の地名は他の地区からは得られなかった。

以上のことから、『毛介綺煥』のヤマネの産地は「井手ノ谷」の山中にあたる北緯32.18度、東経130.574度付近で、標高は400-700mと推察された (3次メッシュコード4830-2415; 5倍メッシュコード4830-242). 江戸時代末期の村落の配置を示すと考えられる明治5年当時の自然村図 (熊本県総務部地方課 1995) によれば、この地は旧寺床村と旧大川内村の境界付近にあたる。どのような理由により『毛介綺煥』の解説文において産地が「久木野村」とされたのかは不明であるが、あるいは久木野手永を示す意図があったのかもしれない。

2010年1月、現地をよく知る古里勝美氏と久木野大川字寺床の中村秀芳氏とともに「井手ノ谷」を巡見した。Fig. 3の写真の中央右から左に「井手ノ谷」が流れている。「井手ノ谷」の周囲は棚田とスギ *Cryptomeria japonica* やヒノキ *Chamaecyparis obtusa* の人工林で、一部には伐採が進んでいる場所もみられた。以前は「井手ノ谷」から棚田に水を引くための水路が3つあったが、現在は耕作放棄が進み、水路は壊れてしまっていた。

『毛介綺煥』のヤマネの解説文によれば、この個体は1757年1月26日にカシ類 *Quercus* spp. の朽木の中に入ったところを捕獲されたもので、時期的に冬眠中の個体であった可能性が高い。およそ250年前、「井手ノ谷」の山中は照葉樹林に覆われており、一帯はヤマネの生息地となっていたのだろう。その場所は現在、針葉樹人工林に覆われており (Fig. 3), ヤマネの生息適地ではない。

ヤマネは国の天然記念物として保護の対象となってい

る。熊本県内における分布は限定的で、これまで菊池・阿蘇、五木・五家荘、人吉・球磨から生息が確認されるのみであり、熊本県レッドデータブック (RDB) では絶滅危惧II類 (VU) に区分されている (熊本県希少野生動植物検討委員会 2009)。

熊本野生生物研究会は、2009年7月より県 RDB 補完調査の一環として、今回明らかになった「井手ノ谷」から南東に約1.5km離れた水俣市大川に位置する国有林 (1420林班ろ小班; Fig. 2) において、巣箱と自動撮影カメラによる樹上性哺乳類の生息調査を行い、水俣地域からはじめてヤマネの生息を確認した (坂田ほか 2010)。

この森林は林野庁の材木遺伝子資源保護林かつ熊本県自然環境保全地域に指定されている。植生はマテバシイ *Lithocarpus edulis*, ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* 等を主体に、アカガシ *Quercus acuta*, ウラジロガシ *Quercus salicina*, イチイガシ *Quercus gilva* 等を含む、水俣・芦北地域における唯一のまとまった照葉樹林である。現況は二次林であるが、1967年から国際生物事業計画 (IBP) の特別研究区域として生態学者による専門的分野での研究が行われ、一部は現在も継続されているなど、学術的にも貴重な森林となっている。

以上のことから、本研究により、『毛介綺煥』に描かれたヤマネの産地が特定され、水俣市東部には江戸時代後期以降現在に至るまで、ヤマネの個体群が絶えることなく存続してきた生息地があることが明らかとなった。しかし、現在この地域に、ヤマネの生息適地である成熟した天然林はほとんど残っていない。将来にわたってヤマネが絶滅することがないよう、現存する生息地の保全を図る必要がある。



Fig. 3. Photograph of the locality at present (6 February 2010). The area (center) was mostly covered by conifer plantation.

摘 要

1. 熊本県南部の山林から250余年前に捕獲されたヤマネの産地を水俣市大川の山中（標高400-700m）と特定した。
2. ヤマネは国の天然記念物であり、熊本県のRDBにおいて絶滅危惧II類に区分されていることから、本地域のヤマネが絶滅することがないよう現存する生息地の保全を図る必要がある。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 2008. 日本の哺乳類 改訂2版. 東海大学出版会, 秦野, pp206.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会. 2009. 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと2009—. 熊本県, 熊本, pp597.

- 熊本県総務部地方課（編）. 1995. 熊本縣市町村合併史（改訂版）. 熊本県総務部地方課, 熊本, pp1029.
- 水俣市史編さん委員会（編）. 1991. 新水俣市史. 上巻. 水俣市, 水俣, pp1007.
- 水俣市史編さん委員会（編）. 1997. 新水俣市史. 民俗・人物編. 水俣市, 水俣, pp1181.
- 中島福男. 2006. 日本のヤマネ [改訂版]. 信濃毎日新聞社, 長野, pp179.
- 西岡鉄夫（編）. 1974. 熊本の動物. 熊本日日新聞社, 熊本, pp223.
- 西山松之助. 1988. 真写文化史上の細川重賢. 成城大学民俗学研究所紀要, 12: 79-139.
- 坂田拓司・安田雅俊・長峰 智. 2010. 水俣市大川におけるニホンモモンガとヤマネの確認. 熊本野生生物研究会誌, (6): 23-28.
- 吉倉 眞. 1988. 熊本の陸生哺乳動物. (2) 分布と実態. 土龍, (13): 100-121.

Summary

We carried out a study of the Japanese dormouse *Glirulus japonicus* illustrated in Moukaikikan, a Japanese natural historical material drawn and compiled by the 6th lord of Kumamoto-han Shigekata Hosokawa in the mid 18th century. According to the annotation of the *Glirulus japonicus* illustration, we confirmed that both the locality and the collection date of the illustrated individual of *Glirulus japonicus* was to be Ookawa, Minamata City, Kumamoto Prefecture on 26 January 1757. As *Glirulus japonicus* is a natural monument of Japan and a vulnerable species of Kumamoto Prefecture, the known habitats of the species should be protected for their survival.

受付日：2010年6月12日 受理日：2010年7月29日

連絡先：安田雅俊

〒860-0862 熊本県熊本市黒髪4-11-16

森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ

ファックス 096-344-5054

電子メール yasuda@mammalogist.jp